



ル・コルビュジエと初期全体計画案模型

ル・コルビュジエ (Le Corbusier 1887~1965)

- ・ 本名: シャルル・エドゥアール・ジャンヌレ (Charles Edouard Jeanneret)
- ・ スイス生まれ(のちにフランス国籍取得)
- ・ 20世紀を代表する近代建築の巨匠
- ・ 「ル・コルビュジエ」という名前は、雑誌「エスプリ・ヌーヴォー」上で使用したペンネーム
- ・ 「ドミノシステム」、「新しい建築のための5つの要点」(①ピロティ、②屋上庭園、③自由な平面、④横長の窓(水平に連続する窓)、⑤自由なファサード)、「モデュロール」など新たなアイデアを提案し、20世紀以降の建築・デザインに多大な影響を与えた。
- ・ 代表作品: サヴォワ邸、マルセイユのユニテ・ダビタシオン、ロンシャンの礼拝堂など
- ・ 建築分野以外にも、絵画、版画、彫刻などの芸術作品の制作をはじめ、インテリアのデザインや執筆活動などにも取り組む。

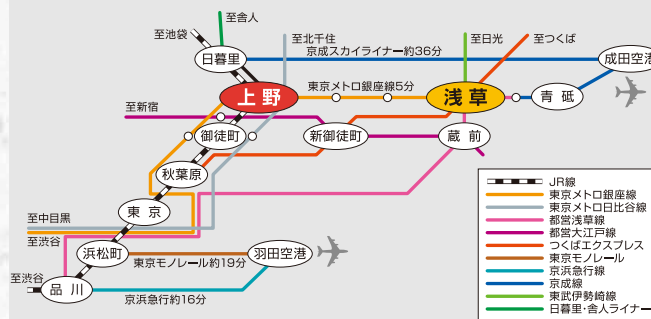
国立西洋美術館のご案内

開館時間 午前9時30分～午後5時30分
 (冬の期間は午前9時30分～午後5時まで)
 ※毎週金曜日:午前9時30分～午後8時まで
 ※入館は閉館の30分前まで

休館日 毎週月曜日及び12月28日～1月1日
 常設展観覧料 一般420円、大学生130円
 ※高校生以下及び18歳未満、65歳以上、心身に障害のある方及び付添者は無料

常設展無料観覧日 毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
 問合せ先 03(5777)8600 (ハローダイヤル)

アクセスMAP



- JR上野駅下車(公園口出口)／徒歩1分
- 京成電鉄 京成上野駅下車／徒歩7分
- 東京メトロ銀座線、日比谷線 上野駅下車／徒歩8分
- 東西めぐりん2・22番停留所「上野駅・上野公園」／徒歩1分



台東区は地域の方々の協力のもと、官民連携による世界遺産登録推進活動に取り組んでいます。

編集・発行 平成25年8月 台東区世界遺産登録推進室
 〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6
 TEL 03(5246)1111 FAX 03(5246)1339
<http://www.city.taito.lg.jp/sekaiisan/>



ホームページ
 二次元コード
 (スマートフォン対応)

[編集協力・写真提供] 国立西洋美術館

世界遺産への登録をめざして

FOR THE WORLD HERITAGE

日本で唯一のル・コルビュジエ作品

国立西洋美術館

THE NATIONAL MUSEUM OF WESTERN ART



台東区

国立西洋美術館を世界遺産に!

“芸術の森、上野”にある国立西洋美術館は、所蔵する松方コレクションを中心にルノアール、モネ、ピカソ、ロダンなどの優れた西洋美術作品を鑑賞することができます。

現在、建築家ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館を価値ある文化財として後世に引き継ぐため、フランス政府が中心となり、ユネスコの世界遺産リストへの登録を目指しています。

世界遺産登録を目指して -これまでの経過-

2007年	9月	フランス政府から日本政府へ共同推薦の依頼 日本政府が国立西洋美術館本館を「世界遺産暫定一覧表」へ記載
	12月	国立西洋美術館本館を国の重要文化財(建造物)に指定
2008年	1月	日本政府は「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦を決定
	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築と都市計画」を提出(◆)
	10月	ICOMOS(※1)による現地調査
2009年	5月	ICOMOSから「記載延期」とする勧告
	6月	第33回世界遺産委員会(スペイン)で審査「情報照会」(※2)とする決議
2011年	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」として追加情報を提出(推薦書のタイトルの変更、構成資産の見直し等を行った)(◆)
	5月	ICOMOSから「不記載」とする勧告
	6月	第35回世界遺産委員会(フランス)で再審査「記載延期」(※3)とする決議
2012年~		次回の推薦書提出に向け、関係国間で協議中

◆6か国(日本・フランス・スイス・ベルギー・ドイツ・アルゼンチン)による共同推薦

※1 ICOMOS(イコモス):国際記念物遺跡会議。世界遺産委員会の文化遺産に関する諮問機関

※2「情報照会」決議:追加情報の提出を求めた上で次回以降に再審議するもの。

※3「記載延期」決議:より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要なもの。推薦書を再提出した後、約1年半をかけて再度諮問機関の審査を受ける必要がある。

(※1~3:文化庁報道発表より)



ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館

—建物としての価値—

◎日仏文化交流の起点となった歴史的な建造物

松方コレクションの寄贈返還を通じて、戦後の日本とフランスの国交回復、関係改善の象徴となった歴史的建造物です。

◎日本で唯一のル・コルビュジエ作品

ピロティー、スロープ、自然光を利用した照明計画など、ル・コルビュジエの建築的な特徴が良く表現されている作品です。

◎「無限成長美術館」の構想を実現した美術館

19世紀ホールを中心に渦巻きのように螺旋(らせん)を描きながら展示回廊が外側へ無限に拡大するというアイデアを実現した美術館です。



19世紀ホール



本館展示室



完成後の建物全景(1960年頃)

【国立西洋美術館はじめて物語】

1910~20年代にかけて、川崎造船所社長の松方幸次郎は、日本に西洋美術を紹介するため、ヨーロッパで絵画等の美術品(松方コレクションという)を収集しました。第二次世界大戦後、パリに保管されていた松方コレクションは、一時、敵国財産としてフランス政府の管理下に置かれましたが、その後、1953年に日本へ寄贈返還されることが決定されました。この松方コレクションを展示するために建設されたのが、上野の森にある「国立西洋美術館」です。

新美術館の設計者には、世界的に有名な建築家ル・コルビュジエが指名されました。コルビュジエは、1955(昭和30)年11月に来日し、建設予定地等を視察しました。コルビュジエが日本へ提出した設計図を基に、彼に師事した前川國男、坂倉準三、吉阪隆正の3人の弟子が詳細な図面を描き起こして設計を補助しました。

国立西洋美術館は、1958(昭和33)年に建設着工、翌1959(昭和34)年に完成し、開館を迎えました。